

1 研究主題

自ら学ぶ長小の子ども（主題）

－聴き合い、学び合う授業づくりを通して－（副題）

2 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

OECD による国際学習到達度調査（PISA2003）において、我が国の子どもたちの能力で低下している能力が「思考力・判断力・表現力」であることが明らかになった。さらに、6年前から実施された全国学力・学習状況調査結果から「知識・技能を活用する力」に課題があることもわかった。

そして、2008年3月、文部科学省から新学習指導要領が改訂された。「生きる力」の教育理念は現行と変わらず、「生きる力」を支える「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和を重視している。また、学力の重要な要素として

○基礎的・基本的な知識・技能の習得

○知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成

○学習意欲や学習習慣の確立

が示された。

また、子どもたちを取り巻く社会状況の変化としては、家庭や地域の教育力の低下や世代間の人間関係の希薄化等が指摘されている。このことは、子どもたちの言語活動にも大きな影響を及ぼし、言葉遣いの乱れや語彙力の貧困さ、コミュニケーションが図れず円滑な人間関係が築けない等の現象となって現れている。学校教育の中で、国語力の向上が強く求められているのは、このためであり、読解力や文章表現力が不足している問題とも大きく関わっていると思われる。

以上のような今日の課題から、学び合いの授業を多く取り入れていくことで、思考力・判断力・表現力を含めた「確かな学力」が育成され、さらに、豊かな人間関係を形成していくことにつながっていくと考える。

(2) 学校教育目標から

- | | |
|----------------------------|---|
| 「自ら学び
◎かしこい子
(確かな学び) | 進んで鍛え 共に伸びる 長小の子
○基礎的な知識・技能の習得とそれらを活用して思考力・判断力・表現力等を育てる。
○共に学び合う力とともに、自ら学び、考えるなど、主体的に学習に取り組む態度を育てる。
○聴くことを中心に、話す・読む・書く、コミュニケーション力など、生活の中の国語力の向上を目指す。 |
| ◎やさしい子
(豊かな心) | ○共生（協力、思いやり）と自立・自律できる力を育て、いじめや不登校のない楽しい学校生活を築く力を育てる。
○豊かに伝え合う力を育てる。
○豊かな体験活動や読書、文化活動を通して豊かな感性を育てる。 |

今日の教育課題を意識し、学校という場で、ねらいや目標の実現を図っていくためには、毎日の授業の改善が必要である。子どもたちの誰もが安心して学ぶことができ、一人ひとりの学力を高められる授業づくりが必要とされている。また、その中で、一人ひとりの子どもたちがお互いに支え合う人間関係を築き、共に学び合う姿勢を身につけていくことが求められている。

(3) 子どもの実態から

本校は、今年度から長坂4校が統合して、児童数387名である。各学年の児童数はほぼ60名である。学校生活の様子を見ても昨年度までそれぞれの学校で培ってきたものにも違いがあり、生活する上でのルールづくりも少しずつ異なっているため子どもたちの中では戸惑いも見える。統合して間もないことから、子ども同士の間関係も思うようには図れていない。しかし、教室内では少しずつ理解し合えるように教師も関わり、取り組みもしている。そこで、

○自分の課題をもち、「聴き合い学び合う教室づくり」をめざしたい。

○仲間と考えをつなぎ、友だちとの関わりの中から学ぶ子どもを育てていきたい。それによってお互いに支え合う豊かな人間関係を形成させていきたい。

○思考力・判断力・表現力を高めていきたい。

と考えている。

3 研究の基本的な考え方

(1) 自ら学ぶ長小の子どもとは

教師の適切な指導のもと、自分の考えを発表したり友達の意見を聞いたりして、学び合いに積極的に参加している。その中では、自分が調べてきたことや今までに学習してきたことをもとに、みんなにわかるように自分の考えを発表している。そして、学び合いを通して、わかるようになった自分やできるようになった自分に喜びを味わい、自分が変わっていくことは楽しいと感じている。さらに、学ぶことは、これからの自分のために必要なこと、自分が成長するために大切なことに気づき自ら取り組むことである。

このように、学ぶ意欲を基盤とした確かな学力、特に、思考力・判断力・表現力を身につけた子どもを育てていきたい。

(2) 聴き合うとは

聴き合う・・・耳を傾けて聴き合う。

* 聞く・・・耳に入ってくる。聞こえる。無意識に聞いている状態。

(h e a r)

* 聴く・・・聞き取ろうとして聞き耳を立てる。話の内容を正確にとらえようとして聴く場合。

(l i s t e n)

* 訊く・・・相手に尋ねたり、聞いたいたりしながら新たな考えを得るために聞く場合。

(a s k)

〔音声言語指導大事典より〕

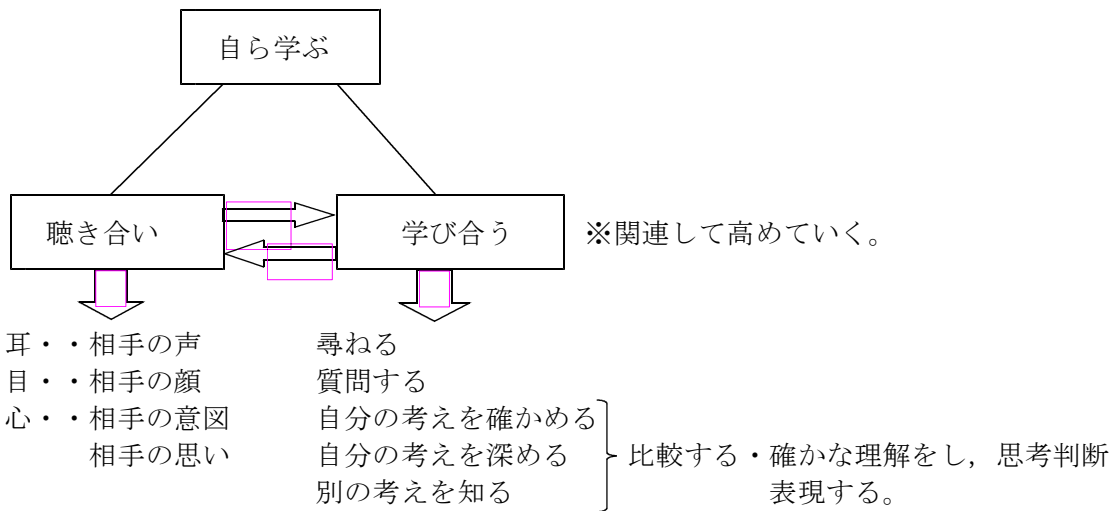
「学び合い」の学習環境を作るための土台作りとして、まずは「聴くこと」を大切にしたい。そこで、聴き方としては、耳で相手の声を聞き、目で相手の顔を見る、心で相手の意図や思いを感じる聞き方を基本とする。

(3) 学び合うとは

学び合う・・・子どもたち一人ひとりが課題を持ち、友達や教師との関わり合いを通して、新しい考え方に気づいたり、自分の考えを深めたりする。自ら人とつながりを持って自分の意見を伝えたり人の意見を受け入れたりするようなコミュニケーション能力の育成

(そのためには、学ぶ場にふさわしくなるような学級作り、学級経営が重要である。)

学び合いの中では気軽に相手に尋ねたり聞いたいたりしながら自分の考えを確認し深めたり別の考えを知ったりして比較する。さらに、言語を通して確かな理解をし、思考・判断・表現する力を高められるようにしていきたい。



4 研究仮説

国語科の授業の中でねらいを明確にした学び合いの場を設定し、言語活動を充実させた学習活動を行うことにより、「自ら学ぶ長小の子ども」が育つであろう。

・ねらいを明確にした学び合い

ねらいとは、学習のゴールのことである。教師が子どもたちをどこに向かわせようとしているのか、何がどのくらいできるようになればいいのかを明確にしたものである。すなわち、各単位時間の到達目標である。

学び合いの場の設定は、いろいろな考えを出し合う、他の考えをもとにして自分の考えを深める、より効果的な方法を追求するなどの様々な場面が考えられる。しかし、ねらいが明確でないと、話し合いの方向も曖昧になってしまう。そこで、どの段階で、何のために、何を身につけたいのか、そのためにはどんな指導が効果的かなど、ねらいを明確にした学び合いが行われることが重要であると考え。そして、友達との関わり合いを通して、新たな考え方に気づいたり、自分の考えを深めたりする学習活動が展開されることが必要である。

そこで、子どもの実態把握をする上で学力テストや日常の観察、QUテストなどから得たデータをもとにして、教科書等に示された「本時の目標」を、子どもの学習に寄り添った「本時のねらい」として示し、それを達成するための指導はどうあるべきかを考えながら、学習を展開することにした。

そして、学び合いの場が、知識・理解や技能の習得だけに留まらず、友達との関わり合いを通して、思考力・判断力・表現力を伸ばすことができたかどうかを一つの授業観察の視点にして、検証していく。

5 研究の目的

- (1) 子どもの学力向上
 - ・基礎基本の習得
 - ・思考力、判断力、表現力の育成
- (2) お互いに支え合う豊かな人間関係の育成
- (3) 教師としての専門的力量的向上

6 研究の内容

(1) 聴き合い、学び合う教室づくり

【聴くこと】

- ・聴くことを習慣化（聴く時の作法を身に付ける）する。
- ・聴き合う関係づくり（学び方の基盤として）を工夫する。
教師は、子どものつぶやきの声を聴く姿勢を持ち（どの子どもの考えを受け入れる）、子どもの発言を聴く、もどす、つなぐ役割を果たす。

「今のは、～さんとつながっているんだね。」(友だちとのつながり)

「どこで気づいたの？」(教材とのつながり)

子どもは、自分の考えを持ち、表現する。考えを比較する。見つけていないことを加える。

【学び合うこと】

- ・声のものさしや話型を意識できるように工夫する。
目的に合わせての声の大きさや話し方(人、場所)
- ・自分の考えや思いを自分なりの言葉や方法で表現できるように工夫する。
事実・根拠・理由に基づいて考えを持ち、自分なりの言葉で話す。
- ・学び合う関係づくりを工夫する。
分からないことを気軽に問いかける姿勢「ねえ、どうするの？」必ず応える。
友達の意見を聴いて、反応をする。
- ・自分の考えを振り返り、自己の変容を実感できるような活動を工夫する。
(学習感想の活用)

(2) 自ら学ぶ意欲を生み出すための教材の研究と学習環境づくり

- ・問題解決的な課題設定、知的好奇心をくすぐる課題設定を考える。
- ・実験や観察、作業など、教材とじっくり向き合う活動を考える。
- ・教材との出会いを支え、探求心を刺激する教室環境づくり(本・資料)を考える。
- ・学びの過程がわかる環境づくり(テキストの拡大コピー・ノートへの学習感想)を考える。
- ・確かな学力向上のための豊かな言語環境づくりを考える。
(教師自身の言語感覚を磨くことや学校内の掲示の工夫等)

(3) 学習形態の工夫

- ・内容や場に合わせ、「個」「ペア」「小グループ」「一斉」学習等を工夫する。
- ・すべての子どもが学習に参加し、表現を共有したり、気軽に意見交換したりする場を工夫する。
- ・友達や先生の表情がよく見え、考えを交換しやすい場の設定(コの字型など)を工夫する。

7 研究の流れ・方法

- <1学期> ・研究計画立案・理論研究
・「聴き合い」「学び合う」を軸に共有できる研究
・研究内容の具体的な指導の手立てについて研究
(低・中・高ブロック)
・QUテスト実施及び分析→一人300円
(用紙代100円・データ診断料200円)

- <夏季休業中> ・ブロック研究
・教育課程環流報告

- <2学期> ・授業実践
・公開研究会参加

- <3学期> ・研究のまとめ
・研究紀要作成

(1) 研究教科

- ・国語科(学級担任のみ)

(2) 授業実践

- ・低・中・高学年のブロック研究において提案授業をし、全体で検証していく。